

**先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム)
実施状況報告書(平成 22 年度)**

本様式の内容は一般に公表されます

研究課題名	広汎性発達障害における対人相互作用障害の心理神経基盤の統合的解明
研究機関・ 部局・職名	京都大学・次世代研究者育成センター・特定准教授
氏名	佐藤 弥

1. 当該年度の研究目的

動的表情の受動的注視の検討

- fMRI 実験: PDD 者および定型発達者において、動的・静的表情を受動的に見る際の fMRI を計測し、動的表情処理に関与する神経基盤の空間的全体像を同定する。
- MEG 実験: 上述のパラダイムを用いて、MEG を計測し、神経基盤を時間的に同定する。
- 臨床査定: 患者の臨床状態について質問紙および面接での調査を行い、心理・fMRI・MEG データとの対応を調べる。

2. 研究の実施状況

- fMRI 実験: PDD 者および定型発達者において、動的・静的表情を受動的に見る際の脳活動を fMRI で計測した。解析が終了し、動的表情の処理に関して、PDD 群において社会的処理関連脳部位の活動が低いこと、部位間の機能的結合が弱いことが示された。現在論文を執筆中である。
- MEG 実験: 定型発達者を対象として、動的表情を受動的に見る際の脳活動を MEG で計測した。統制課題は、予備実験の結果から動的モザイクに変更した。解析が終了し、動的表情処理における社会的処理関連脳部位の活動の時間情報、部位間の情報伝達様式が明らかとなった。現在論文を執筆中である。なお解析について予定外の技術的問題および発展があり、また予算の不足から、PDD 者の計測は次年度の課題として持ちこされた。
- 臨床査定: PDD 者を対象として面接による臨床状態の調査を実施した。あわせて静止画表情認識を実施し、臨床状態と心理成績の関係を解析した。その結果、社会的問題と恐怖表情の認識障害との間に関係が示された。これについて論文を執筆し、現在審査中である。今後、質問紙による査定を加え、他の心理課題および脳活動との対応を検討していく。
- その他の活動: 共同研究者に協力を求め、計画通りの共同研究体制を構築した。個別および全体での会議を実施し、戦略を策定した。心理実験および臨床査定を充実させるための研究者および研究補佐者について、募集をかけた。

様式19 別紙1

3. 研究発表等

雑誌論文 計0件	(掲載済み一査読有り) 計0件 (掲載済み一査読無し) 計0件 (未掲載) 計0件
会議発表 計0件	専門家向け 計0件 一般向け 計0件
図書 計0件	
産業財産権 出願・取得状 況 計0件	(取得済み) 計0件 (出願中) 計0件
Webページ (URL)	
国民との科 学・技術対話 の実施状況	
新聞・一般雑 誌等掲載 計0件	
その他	

4. その他特記事項

実施状況報告書(平成22年度) 助成金の執行状況

本様式の内容は一般に公表されます

1. 助成金の受領状況(累計) (単位:円)

	①交付決定額	②既受領額 (前年度迄の 累計)	③当該年度受 領額	④(=①-②- ③)未受領額
直接経費	67,000,000	0	23,750,000	43,250,000
間接経費	20,100,000	0	7,125,000	12,975,000
合計	87,100,000	0	30,875,000	56,225,000

2. 当該年度の収支状況 (単位:円)

	①前年度未執 行額	②当該年度受 領額	③当該年度受 取利息等額 (未収利息を 除く)	④(=①+②+ ③)当該年度 合計収入	⑤当該年度 執行額	⑥(=④-⑤) 当該年度未執 行額
直接経費	0	23,750,000	0	23,750,000	79,800	23,670,200
間接経費	0	7,125,000	0	7,125,000	0	7,125,000
合計	0	30,875,000	0	30,875,000	79,800	30,795,200

3. 当該年度の執行額内訳 (単位:円)

		金額	備考
直接経費計	物品費	79,800	実験用ノートPC
	旅費	0	
	謝金・人件費等	0	
	その他	0	
直接経費計		79,800	
間接経費計		0	
合計		79,800	

4. 当該年度の主な購入物品(1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの)

物品名	仕様・型・性能 等	数量	単価 (単位:円)	金額 (単位:円)	納入 年月日	設置研究機関 名
該当なし				0		
				0		
				0		